

憧れの『JAPAN』ユニフォームに袖を通して



横浜市立浜中学校 清水 風

私は小学生の頃、硬式野球をやるか、軟式野球をやるか迷いました。そして、小学校の頃の仲間と一緒に中学軟式野球部に入る道を選びました。

入部して最初のうちはまだ体も小さく、野球のルールも知らない事だらけで、先輩のプレーを見る度に自分との差を感じ、もっと頑張らなくてはと思わされました。

新チームに入り、新人戦から登板機会をいただきましたが、不安も多くありました。何故なら、二年生の大切な試合だったからです。それでも一試合一試合、自分の役割を果たそうと必死で投げたことを思い出します。

一方で怪我也も多く、チームの仲間に迷惑をかけたこともありました。しかも、野球とは関係のない怪我でした。ある時、先生から「ふざけて怪我をしているとチームから信頼されなくなるぞ」と、喝を入れていただいたことが、自覚を芽生えさせ、意識を転換させるきっかけになったと思います。

自分達の代になって決めたチームの目標は、『全国制覇』でした。そして、一つの勝利をつかむために一戦一戦命懸けで戦おうと、『一勝懸命』をスローガンに掲げました。

チームは新人戦から順調に勝ちを積み重ね、横浜市・神奈川県春季野球大会で優勝し、全日本少年軟式野球大会の出場権を得ることができました。しかし、四連覇を狙った最後の市総体で負けてしまいました。このままでは全国で通用しないと痛感し、その敗戦がもう一度自分達の戦い方を見直すきっかけとなったのです。その後、全日本少年までは今までにない負け方を繰り返し、本当に苦しい時期がありましたが、自分達を信じて練習し続け乗り越えられました。

全日本少年の初戦、自分の納得のいく投球はできませんでしたが、仲間の助けもあり勝つことができました。二回戦は、負けてしまったものの、自分達がやってきた浜中の野球をして負けたので、悔いはありませんでした。

これで中学野球が終わったと思いましたが、両親から大事な話があると言われ、日本代表に選ばれた事を知りました。その時、緊張感やワクワク感や色々な感情が生まれました。

日本代表の第一次合宿では、日本各地から選ばれた選手たちとの練習が始まりました。身体も大きく、運動能力の高い選手ばかりで、新たな野球観を感じる事ができました。さら

に大会直前合宿で、初めて『JAPAN』のユニフォームを手にした時の興奮は、今でも鮮明に覚えています。

私たち日本代表の目標は、勿論『アジア NO1・優勝』です。最初の練習では、遠慮があったのかダラダラとしていましたが、監督の言葉でみんなの目の色が変わり、次の日の練習から気合の入った練習をすることができました。大会が始まると、初戦の韓国戦に見事勝利し、その後も次々と勝つ事ができました。僕も第二戦のパキスタン戦での先発投手として、また第四戦の中国戦では抑え投手として登板し、勝利に貢献することができました。しかし、優勝をかけた最終戦の台湾戦で負けてしまい準優勝となりました。この大会を通してアジアの野球仲間と出会い、世界の野球を知ることができました。しかし、目標達成ができずに悔しい気持ちで一杯です。この様な経験をできたのは、私たち18人しかいないので、大きな自信として高校野球につなげていきたいと思います。

僕は、この三年間で大変多くの貴重な経験をすることができました。中学の部活動でいつも言われていたことは「学校生活を大事にすること」でした。普段から隙のある者は大事な試合でもそれが出る。簡単なようでとても難しいものでしたが、それがあったからこそ今の自分があると思います。中学生の皆さんも中学校の野球部に所属していても努力を続けていれば、『JAPAN』のユニフォームに袖を通すチャンスがありますので、夢を持って野球を続けて欲しいです。